

# カジノ法案審議入りへ

## 自民、今国会で公明も容認

自民党は1日、カジノを中心とした統合型リゾート（IR）を推進する法案（カジノ法案）を9日にも衆院で審議入りさせる方針を固めた。衆院内閣委員会の審議時間に余裕が生じ、慎重だった公明党も容認した。観光客誘致の起爆剤として期待するが、今国会で成立するかは不透明だ。

法案はカジノや宿泊施設などIRの整備を後押しする内容。超党派の国際観光産業振興議員連盟（IR議連）がまとめた。政府・自民党内には、2020年東京五輪や、大阪への誘致をめざす25年の国際博覧会（万博）との

の相乗効果を期待する声が多い。

菅義偉官房長官や茂木敏充自民党政調会長らが

1日、国会内で会談し、

今国会で審議入りさせる

方針を確認した。カジノ

によるギャンブル依存症の増加などを懸念してい

た公明党も「審議自体は否定しない」（幹部）と容認した。

衆院内閣委員会は2日

に国家公務員給与改定の

2法案を採決する。官民

のビッグデータ活用を促

す法案を経て、9日にも

後合法化をカジノを後押しする議員連盟（10月、国会内）



検討中。自民党幹部は「カジノ法案の審議に余裕が生まれる」と語る。

もつとも、参院内閣委員会の委員長ポストは民進党が握っている。参院では自民党の思い通りに審議が進まない可能性がある。参院はこれからT P Pの審議も始まるため、与党内にも「カジノ法案を成立させる余裕はない」との声がある。

方針だ。与党は環太平洋経済連携協定（T P P）承認案と関連法案の今国会成立に向け会期延長を

カジノ法案は13年に自民党や当時の日本維新の会が共同提出。14年に衆院で審議入りしたが、同年の衆院解散で廃案になった。15年に再提出したが、これまで審議には至っていないかった。